

# 平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:言語文化研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
<b>S</b>	<b>A</b>	<b>S</b>

## 【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		マルチリンガル教育センターとの連携により、アクティブラーニングの少人数クラス制や英語e-ラーニング教育等を導入する言語教育の新カリキュラム実施体制を整えたことが評価できる。また概算要求プロジェクト「キャンパスライフ一貫型」言語教育によるグローバルプレゼンスの確立の採択により、高学年次向けの専門英語教育の開発や学生の自律学習を支援するOUマルチリンガルプラザ構想の実現に向けた準備を進めたことが認められる。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		箕面新キャンパスにおけるエクステンション・プログラムの準備として従来の箕面市との連携講座に加えて、10月から、みのお市民活動センターとの共催により、「マンスリー多文化サロン」を毎月開催したことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		マヒドン大学(タイ)との間で応用言語学のダブル・ディグリー・プログラムを開始し、研究科の教育研究のグローバル化を推進したことが評価できる。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		海外の大学と10件のクロス・アポイントメントを実施し、外国人教員や女性教員など、多様な人材の雇用と活用を推進したことが評価できる。

## 【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

**【評価コメント】**  
 外国人留学生比率について、意欲的に取り組むことで実績を伸ばしていること、かつ大学実績に大きく寄与していることが評価できる。  
 また、クロス・アポイントメント実施件数について、積極的な制度活用により、実績を大きく伸ばしていることが評価できる。